

交野市学校規模適正化基本計画（素案）パブリックコメント結果概要

注）本計画（素案）は「交野市学校施設等管理計画（素案）」と同時期にパブリックコメントを実施しており、いずれの計画に対する意見かの記載がないものは、該当する項目に整理いたしました。

また、「交野市学校施設等管理計画（素案）」と本計画（素案）に共通する意見は、「本計画（素案）パブリックコメント結果概要」の項目にまとめて記載いたしました。

（１）計画の背景・目的等

０件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
		０件

（２）交野市の教育及び市立小・中学校の現状と将来予測

２９件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
小中一貫教育全体について		
・「連携」から「一貫」への展開の理由が不明瞭である。具体的一貫教育の利点の説明が、欠落している。 ・一貫教育自体についての市民からの意見の徴収がなされていない。 ・教育大綱において「９年間を通した教育」とあり、連携教育としての概要の言及はされているが、一貫教育というものについては全く触れておらず、何をもちて市民に承認されたというのか。 かつて「ゆとり教育」という取り組みが行われていたが、その検証は行われたのか。世界に羽ばたきたいのであれば世界基準の教育を行わなければ太刀打ちできるものではない。 今の連携教育の流れを発展させた、と言っている一貫教育はまるで連携教育の副産物のようにとって付けているが、連携教育をしていなかったとしても、一貫教育を推し進めているであろう。その中身ときては観念的な概要しか表記がなく、「９年間を一貫した教育体系」との抽象的な表現では理解のしようがない。	小中一貫教育については、平成 28 年度に作成した「交野市小中一貫教育指針」に基づき、平成 32 年度からすべての中学校区で実施することとなっています。 「交野市教育大綱」では、小学校と中学校で『めざす子ども像』の実現に向け、共同して指導の在り方の研究と実践を行い、連携を一層深め、「義務教育終了までの『学びの連続性』を保障する」教育の重要性を掲げています。また、「交野市学校教育ビジョン」では、９年間を見通した指導の一貫化や系統化を図り、授業研究や指導方法の工夫改善を図るための体制づくりが、「確かな学力」をはぐくむ教育の推進につながることを述べています。 近年、国際化や少子化、情報化の進展など子どもたち	１４件

しかも、今まで「9年間を一貫していなかった」という事自体おかしな話である。 ・小中一貫教育が本当に必要なのか？ ・一貫教育の大きな目的としては、「子ども達が、大きく変動する社会に対応して生きていけるように、基礎基本に立脚した、応用力・発展力・創造力を習得させる。」と云った辺りが共通認識のベースかと思います。子ども達が、予測不能な不確実な時代を生き抜くための、考え方や論理の組み立て方を育てるための、システムづくりをしておくことが、現在を生きる大人の責務である。と考えます。 ・あえて新しい「小中一貫教育」に変えていくよりも、これまで交野の教育が積み上げてきた良さを大切にしてほしいと思います「なぜ小中一貫教育が必要なのか」というところから、もっと市民的にきちんと議論すべきと考えます。 ・なぜ今小中一貫教育を進めなければならないのか？建物の問題と教育の内容は別問題で分けて考えなければならないと思う。 ・学校の建物や敷地、費用などの話が目立ちますが、一貫教育というもののねらいは、そういうものではないと思います。 ・小中一貫教育は小中学校の交流で解決できるはずです。 ・小中一貫教育とは具体的に何なのかは、まったく明らかになっていません。子供たちの成長のため、小学校、中学校が連携を持つということは、教師の大変な状態の中ですが、あってほしいと思います。しかし、小中一貫教育によってそれが解決されるとは理解できません。 ・小中一貫教育について、積極的に進めるとあるが、誰が必要としているのか？課題解決になると誰がどのような根拠で決めたのか？保護者や子どもたちの要望ではない。なぜその過程で意見を聞かず決めたのか？一貫教育はカリキュラムの問題なのになぜ様々な課題解決につながるのか？ 「小中学校間の主な取り組み」に記載されているように、授業態度まで決められている交野スタダードは管理教育でしかなく、教員は研修などの負担が増え子どもも先生も縛りがきつくなります余裕がなくなるのでは？	を取り巻く環境の大きな変化のなかで、学習意欲、不登校、いじめ問題、家庭での学習習慣等の課題が指摘されています。また、「教育内容の量的・質的充実」や「児童生徒の発達の早期化等に関わる現象」など、新たな教育課題もあります。 これらの課題を解決していくためには、小・中学校の接続の部分に重点をおいた小中連携教育の取り組みを土台に、小・中学校の教職員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざす小中一貫教育を進めていく必要があると考えます。 建物の問題と教育の内容は別問題として考えています。近年の教育内容の量的・質的充実への対応や児童生徒の発達の早期化等に関わる現象等からそれぞれの中学校区において地域・家庭・児童生徒の課題を見据え、取り組むべき課題を見極め、対応するために今、9年間の学びに小・中学校すべての教職員が責任を持つ小中一貫教育が有効であると考えます。 小中一貫教育は、学校・家庭・地域がめざす子ども像を共有し、小・中学校9年間を見通して取り組む教育であり、9年間の義務教育課程で子どもたちに「問題解決能力」「未知に対応する力」「協働する力」をバランスよく高めていく取り組みとして、小中一貫教育が有効であると考えます。
--	---

求められる力が変わってきているとの事だが、競争社会に対して何の疑問も持たず子どもたちをその中に放り投げるつもりなのか？ 地域によりめざす内容が違ったり、項目の数に違いがあるのは市全体として小中一貫教育を実施するのにばらつきがあり理解できない。 交野スタンダードや小中一貫教育と言って決まりきった中で行う管理教育ではなく、それぞれの学校や教師が臨機応変に個々に柔軟に対応し、一人一人違う子どもたちの力を伸ばしていける教育、学校が楽しく安心して通える場所である事を望む。 ・ 中一ギャップの解消を目的に掲げているが、小5ギャップや小6ギャップが新たな問題として起こらないのか。その対策が抜けている。その中一ギャップも、元をたどれば小学生のうちから兆候が表れているとの報告もある。発生の頻度やどんな弊害があるのか等の、中一ギャップの説明も抜けている。文部科学省の研究機関の報告も加えて標記するか、説明のしょうがなければ省くべきである。 ・ 小中一貫校という声の背景のひとつとして、中一ギャップを小さくしようとの考えがあると言われています。しかし、ギャップには、高校への進学時や、就職の時もあります。中一ギャップを乗り越える方法として、ひとりひとりの子どもにより寄り添うことができる中学校の学級定数を減らし、35人以下学級にして、教職員の数を増やすことが最も大切だと思います。 ・ 「中一ギャップ」については根拠のないものであることを国立教育政策研究所が述べています。	なお、交野スタンダードは、「子どもが学びとる授業」を推進し、子ども主体の授業づくりをめざす手段のひとつとして示しているものです。 文部科学省が行っている問題行動調査では、毎年、不登校児童・生徒数や暴力行為発生件数、いじめ認知件数等の結果が示されており、中学校1年生の件数が、小学校6年生を上回っています。小中一貫教育に取り組んでいる学校においては、9年間をとおして、一人ひとりの子どもに多くの教職員が関わるできるようになり、よりきめ細かな対応や、小・中学校の指導方法の変化を緩やかにすることが可能になると考えています。 「中一ギャップ」という表現に振り回されることなく、それぞれの中学校区が抱える地域・家庭・児童生徒の課題を見据え、子どもたちをどう育てていくのかを見極めることが大切であると考えます。 中学校の35人以下の学級編制については、学級が増えることで、各教科等の授業時間数が増加します。教職員への負担も考え、現時点では、実施する予定はありません。
--	--

児童生徒数の推計について		
・数年後、人口増加にならないという保障はありません。 ・学校基本規模適正化基本計画（素案）の児童数・生徒数の将来データーは、「交野市人口ビジョン」に基づき、再度つくり直してください。	「国立社会保障・人口問題研究所推計値」では、平成57年までの人口を推計しており、全年齢で減少する見込みとなっています。 市の「人口ビジョン」は「国立社会保障・人口問題研究所推計値」の人口推計をもとに、目標値の推計を作成しています。本計画（素案）では、市の「人口ビジョン」と同様に、「国立社会保障・人口問題研究所推計値」を基本とし、より実態に即した推計とするため、住民基本台帳の実数値も加味して作成しています。児童生徒数については、今後も減少は続く見込みとなっていますが、市のさまざまな施策によって変動する人口や児童生徒数の推移を注視しつつ、進めてまいります。	2件
教職員の多忙・負担感について		
・教職員の業務量の比較について、小規模校の職員が少ない故に分掌業務範囲が広いのであるならば、事務職専門の職員を増員するかクラス担任と別に新たに学年担任と副担任を配置するなどの増員を図るべきである。 生徒の数が少ないので、実際には同じ内容の業務であっても割合的には他と変わらないはずではないのか？単に教員数で業務数を割っているだけのように読み取れる。業務の簡素化や外注などにより仕事量全体を減衰させるような建設的発想はないのか。格差や無駄があるというなら、改善してから報告せよ。 実際の全ての事柄をシュミレートして説明していただきたい。出来なければ削除せよ。 ・仮に分掌の数が10個あったとすると、教員数が10人の学校では、一人一役になります。一方、教員数が30人の学校では、3人で一役を担うことになります。会議が月に1回程度あるので、小規模校の先生は毎月会議に出ることになります。	文部科学省が実施した実態調査によれば、小中一貫教育に取り組んでいる学校のうち、「教職員の負担感・多忙化の解消」について3割弱が「大きな課題が認められる」、6割弱が「課題が認められる」と回答しており、多忙化の解消は小中一貫教育の推進に当たって重要な課題であると考えます。 また、小規模校では、一人の教職員が担当する役割(校務分掌)が、適正規模校より増加し、業務量が多くなることから、教職員の多忙化は、課題であると認識しています。 教職員の人数は、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」にもとづき、決定し	12件

一方、30 人規模の学校の先生は 3 ヶ月に 1 回会議に出ればよいことになり、その分、教材研究や児童と向き合う時間が増やせます ・今問題になっている教職員の多忙化を解消するために教職員を増やすべき ・教職員の負担感を減らすために、どのような取り組みを具体的に行いますか？ ・小学生と中学生の交流生活をする特別の教員を配置することとかは、考えられているのでしょうか？統合で必ず出てくる問題に現教員だけで対応するのは、無理だと思います。子どもにしわよせがいかないようにしないと後で悔やむことになります。 ・合併したら今以上に多忙になる。 ・教職員定数の加配ではなく、定数の抜本的改善が必要。 ・教職員の数を増やすことが、緩和につながる。 ・教職員に専門外の仕事で多忙化をすすめる小中一貫教育？に疑問を感じます。 ・一貫教育で教職員に過酷な労働条件を突きつけることのないように切に願います。 ・教員の業務量比較で小規模校が一人当たりの業務量が多くなるなら教員を増やせば良いだけの話。なぜ、＝適正化なのか？ ・ただでさえ多忙化が深刻になっている教職員の立場から考えても、さらなる業務が追加され、複雑化し、負担がますます増加していくことも火をみるより明らかです。	ますが、本市では、小学校全学年で 35 人以下の学級編制実施に伴う任期付講師の配置や学校支援員派遣の他、小中一貫教育支援員をモデル中学校区の小学校に 1 名、中学校に 1 名配置し、子どもたち一人ひとりに対してきめ細やかな指導を行うとともに教職員の負担軽減も図っています。また、部活動休養日(ノークラブデー)や全庁一斉退庁日、夏季休業期間中の学校閉庁日の設定を行っています。 今後も、働き方改革といった社会的な背景も踏まえ、教職員の多忙・負担感の解消に向け様々な対応の検討が必要と考えます。	
学校規模によるコスト比較について		
・コスト比較表に至っては、施設運営の必要最低の経費はかかって当然なので、生徒が 100 人になろうが 50 人になろうが今とあまり変わりはない。 必要最低経費で運営出来ていることを誇ってもいい事柄ではないのか。 そう言う意味合いの文章に変更をするように。	学校規模によるコスト比較について、児童生徒数に応じて、事業運営や施設に係るコストが変わるわけではなく、施設の維持管理は児童生徒数の少ない小規模な学校ほど、その分コストが割高になる傾向にあります。	1 件

(3) 学校規模適正化の方針と学校適正配置の必要性

26件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
1 学級あたりの児童生徒数について		
・小中の一貫はやるべきではない。少人数学級をやるチャンスなのに市の計画は中止して、ゆとり教育を実行するチャンスにすべきです。 ・一クラス 20 人ぐらいの人数で過すことを望んでいます。交野市の小学校で少人数学級が早く取り入れることを望みます。 ・これからの教育の流れとして、少人数学級が主流となるべきで、学級の人数を増やす必要はない。 ・ひとクラスの人数が増えたら子供たちに先生の目が行き届かない。 ・学級人数を減らし、ゆき届いた教育を実現することではないでしょうか。 ・学級の人数は少なければ少ないほど良いというものではないと言うが、何人以上が適正と考えているか書いていない。35 人以下学級では一学年 36 人の場合 2 学級になり各学級 18 人とすると、18 人以上が適正と考えるのか？ ・欧米諸国では少人数が当たり前で、1 人 1 人にきめ細やかな教育が行われているようです。なぜ学校規模が小さくなるといけないのか疑問に思います。 ・1 学級を分割し、2 学級にすればよいとの意見も散見されますが、これによる増加する教員の人件費はすべて交野市の負担になります。 ・初等教育は「学級少人数」が大切であると考えます。教師が子ども達と関わる時間の保障等、長宝寺小学校での教育の優位性があるのではないのでしょうか。欧米の先進国は、25 人学級を実現して一人ひとりの発達や個性を大切にしている教育条件を実現する努力が行われています。	小中一貫教育を進めることが、1 学級あたりの人数を増やすということではありません。 学級規模については、学習面のみならず、子どもたちの生活面等も考慮する必要があります。 学級編制については、国基準では小学校 1 年生のみ 35 人以下学級であり、大阪府では小学校 2 年生まで 35 人以下学級であるのに対して、本市独自の取組みとして、平成 26 年度から小学校 3 年生から順次 35 人以下の学級編制を実施しています。(1 学級あたり 18 人～35 人) また、さらにきめ細かな指導を行い、学習の定着を図るため、国語や算数・数学、外国語(英語)等、教科によっては、クラスを分割して 10 数人やそれ以下の人数の集団でも授業を実施しています。 諸外国では 20 人以下の少人数学級編制もありますが、外国と日本では授業形態や、学級への帰属意識も異なり、学級活動や学校行事など、集団の中で成長することも多く、一定の人数は必要であると考えられるため、学級の人数は、少なければ少ないほど良いというものではないと考えます。	9 件

学校規模適正化の方針について		
・小規模学校や小規模教育がなぜ子供にとって良くないのか？集団教育、一貫教育と言った、ひとつの学年に複数のクラスがある事が、全ての生徒にとってどれほど大事な事なのか？ 小規模な学校の教育こそ、一人一人を大切にできるものではないのか？ ・学校全体で 100 人から 200 人くらいが、子どもにとって一番良い、という話はあるが、小規模と適正規模の線引きの根拠はなにか？ その線引きによって、切磋琢磨出来ているか出来ていないかの判断がつくのは何故か？ ・国内における様々な小規模校の取り組みの記載もすべきである。 ・集団教育を必要であるなら他校と連携し取り組む、ダブルスクールとしての在り方を検討するべきである。 ・小規模校でも交野の自然にふれあい、先生がすべての子どもに目の行き届く学校生活が望ましいのは、子ども優先に考える大人ならばわかることです。 ・小中一貫の名の下に「広域から通学せねばならず、行き届いた教育が危ぶまれる。」欧州各国は小規模校で子どもへの行き届いた教育を実施しています。 ・そもそも小規模校は本当に害悪の塊なのか、の説明がこの素案に抜けている。 ・教職員数が少ないため、委員会活動やクラブ活動で、設置できるクラブ等の数が少なくなり、児童生徒のニーズに応えられなくなっている。中学校では、顧問の確保ができない場合は、廃部も検討されることになります。 ・修学旅行で観光バスを利用することも多いが、小規模校では一人当たりの費用が高額になるので、やむなく、出発時刻を早めたり、強引にラッシュ時に乗車しています。結果的に児童の体調管理に悪影響を与えています。 ・外部から劇団等を招聘して行う行事でも、小規模校では一人当たりの費用負担が高額になります。適正規模の学校では、目的地に応じて、電車や観光バスが選択できるが、小規模校では、一人あたりの費用負担が高額になるため、電車しか選択できない。今進めている学校統合は、個別の分野のみならず、教育活動全体	学校では、単に教科の知識等を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考え方に触れ、違いを認め合い、協力し合い、互いに尊重し合うことを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身につけることが重要になります。このことから、一定規模の児童生徒集団を確保することは重要なことであり、学校規模の適正化が必要と考えます。 小規模校の場合、教職員一人ひとりが、学校全体の児童生徒について理解しやすい、児童生徒どうしが互いについて、深く理解できるなどの良い面もあると考えます。 しかしながら、小規模校の場合、クラブ活動や部活動の種類が限定されることや、運動会・文化祭・修学旅行等の集団活動・行事、体育や球技、音楽の合唱・合奏のような集団学習の実施や、班活動やグループ分けに制約が生じること、クラス替えができないことで、児童生徒	17件

での統合を行おうとする事業と考えられます。 ・遠足・修学旅行等で貸切バスを使用する際のバス代や、観劇会等の鑑賞費も、小規模校では保護者負担が増大する。 公費で賄えばよいとの意見もありますが、学校規模の適正化とは、保護者負担の差を容認できる範囲内に収れんさせる。という意味もあります。 ・P T A等の役員について、小規模校では人数が確保できないので、何度も回ってくることになる。 一方で、P T A役員や子供会の世話役なども、役員等を引き受けられないので脱会する。という傾向もあり、小規模校は様々な組織の運営に影響を与える。 ・小規模校には小規模校としてのメリットもたくさんあるはずです。 ・一体校に関しては適正規模について検討すらされていないというのも驚きです。 ・小学校1 1 学級以下を小規模校として適正化の対象としていることについては、大いに問題があります。 適正化の理由として、「小規模校では、多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨する機会が少ない」ことが指摘されていますが、根拠・データが示されていません。1 学級であれ集団が形成されていれば、多様な考えや切磋琢磨することが可能と考えます。切磋琢磨も必要ですが、「お互いに良く理解しあい、相手を尊重する人間関係をつくっていく教育こそ必要」と考えます。 小規模校では、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなり、児童の学校教育活動への参加意識や参加度が高くなります。また、児童生徒相互の人間関係が深まってきます。 小規模校ほど教員が児童とのふれあいの機会が増え、緊密化を増し、児童の問題行動などを早く把握することが可能となり、小規模校だからこそその行き届いた教育と相まって、児童のいじめ・不登校が少なくなります。 ヨーロッパなどの小学校の規模は、2 0 0 人以下で小規模校が主流になっています。	の人間関係や相互評価が固定化される、といった課題があると考えます。 また、教職員の定数が少ないことで、学年教員が一人で授業や運動会、校外学習、修学旅行等の計画・立案に携わり、教員一人の業務量が多くなること、保護者の負担(修学旅行でのバス代、卒業アルバム代、鑑賞代、P T A役員の回数など)が大きくなることなども課題が大きいと考えます。
---	--

・各学年 1 学級規模の学校では、6 年間一度もクラス替えが無いので、密度の濃い人間関係が作られるとの意見もあるが、過疎地でもない本市において、人間関係が固定化することの弊害（関係が悪化した場合の逃げ場がない等）の方が大きいと考えられます。 また、教職員との関係も教員が少ないため、多様な人間に触れる機会が減少します。 ・「人間関係の固定化」と言っているが、学校という環境においてその言い回しはおかしい。 家族はほぼ一生が同じ人間どうしが関わる社会形態の一つであるが、固定化が良くないと言うのか？記載して注意喚起をしなければいけない程良くない事なのか。削除すべき文言である。 クラス替えでいじめを解消などといった最悪な対応シナリオを定番化していることが間違いのもとである。	クラス替えのみで、いじめが解消されるとは考えていません。施設一体型小中一貫校における生徒指導面のメリットとして、小中学校の教職員が日常的に情報交換でき、多くの教職員が継続的に関わることにより、子どもの持つ個性を十分に引き出すことができます。 いじめ等の問題に対しても、これまでの指導経過を踏まえ、解決を図ることや、継続的に見守りながら再発防止の取組みを行うことができます。	
---	--	--

(4) 学校適正配置の基本的な考え方

60件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
学校適正配置を検討する上での基本的な考え方について		
・第4章の基本的な考え方の表であるが、5番の一貫教育は、市民は承認していないので、載せないように。 ・中学は区によって一中、二中に分けたらいいと思う。 ・地名だけでの校区変更をしないで校区を見直して欲しい。生徒たちのリスク、負担軽減を考えてほしい。 ・子ども達の通学路の安全性、一人一人の個性を伸ばせる集団の在り方等など考えても現在の校区事に学校があるのが望ましいと思っています。 ・児童数を増やすために、近隣の学校の校区の一部を小規模校の校区に編入すればよいとの意見もありますが、切り取られる側の地域から見れば、他地域の都合で地域コミュニティが破壊されるわけで、とうてい受け入れられる話ではありません。	小中一貫教育については、平成28年度に作成した「交野市小中一貫教育指針」に基づき、平成32年度からすべての中学校区で実施することとなっています。学校適正配置を検討する上での基本的な考え方は、「学校規模適正化基本方針」や交野市学校教育審議会での審議を踏まえて、まとめたものです。 これまでも、子どもたちを地域で見守り、地域学習にもご協力いただくなど、様々な場面で地域の協力に支えられてきた学校ですが、今後、地域コミュニティは学校にとってますます重要なものになると考えられ、これまでに培われた地域コミュニティに配慮する必要があることと、小中一貫教育が現状の中学校区の取組みをさらに発展させていくということから、現在の中学校区を基本として、学校適正配置を検討しています。	5件
施設一体型小中一貫校について		
・文科省や既に実施されている市町村教育委員会の資料をみると一定成果が上がっているかのような書き方をしていますが、果たして現状はどうなのでしょう？例えば、六歳から十五歳まで、年齢的にも発達段階的にも大きく差異・幅のある子どもたちを一まとめにして、どうしてきめ細かな教育ができるのでしょうか？ ・発達段階・成長具合の大きな開き・授業時間の違いなど子供の環境は全く違います。子ども第一に考えた適正化が必要です。 ・小学校と中学校ではこどもの発達段階もちがい、授業時間もちがうそれを1ヶ	施設一体型小中一貫校は、子どもたちや教職員にとって、これまで積み上げてきた小中連携教育や小中一貫教育の成果を活かすために有効であると考えます。また、中一ギャップ等の緩和にもつながるものです。 文部科学省の「小中一貫教育等についての実態調査の結果」では、施設一体型小中一貫校のメリットとして、「学習意欲の向上」や「問題行動の減少」といった教育的な効果も報告されています。また、異学年で交流する	55件

所に集め、合同したら運動、体育の授業もマイナス面がぶつかり弊害が出る。 ・小学校と中学校をなぜ一体校で一緒にするのか分からない。発達段階もちがい、授業時間も違う小・中学生を一緒にすることは、お互いの成長に良くないと思います。 ・小学校と中学校を一体化するのが、お互いの成長に良くないと思う。 ・小学校1年生から中学校3年生まで発達の差がひどすぎ。 ・小学校と中学校を同一の校舎にしたり、同じ校内で生活することは、子どもたちの発達段階や日々の生活リズムを考えても無理だと思います。 ・発達や体つきも異なる小学生と中学生を同じ校内で教育することには無理があります。 ・小学校1年生と中学校3年生の発達段階のちがいは、お互いの成長にとって良くないと思います ・1年生から中学3年生までが一緒に学ぶ意味が分かりません。精神的にも体力的にもあまりに違いすぎます。隣接であっても、別々の広い施設で、発達段階に合った学びが必要だと思います。 ・小中一体校の必要性が、様々な要素が絡まっていることは見て取れるが、この交野にとってなぜそれらが必要かの説明がない。 ・小中一貫校の体制は、子どもの発達を無視した体制である。世間に先駆けて作った「小中一貫校」では、中身は、1年生から6年生の部と、7年生から9年生の部の2つに分けています。交野市案を立案された方は、子どもの発達について、いかほどのご見識をお持ちでしょうか。 ・小学生と中学生とでは差がありすぎ、同じ場所で生活するのには無理がありすぎだと思います。 ・小学校だけでも発達に大きな差があり教育に工夫が必要なのに、6歳から15歳という発達の大きな差に1つの学校で対応できるわけがありません。 ・「発達の早期化」については、たしかに今の子ども達は体格体重性的発達などの面では発達が加速化しています。その反面体力や身体能力の低下が認められて	機会を設定しやすいことから「上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった」とも報告されています。 発達に関する心理学では小学校高学年から抽象的、論理的な思考の段階に入ると考えられています。早期化する身体の成長に伴う思春期の現れる時期、社会的自立への段階等考慮すると、小学校と中学校の教職員が、9年間を見通した教育を行う小中一貫教育は有効であると考えます。
---	---

います。人間の発達には体重や体型性成熟のみで論じられるべきではありません。 ・発達段階の大きく異なる小学1年生から中学3年生を一緒にすることは、お互いの成長にとってマイナス要因が大と言わざるを得ません。最大9年間の発達段階の差がある子ども達を一緒にする必然性が分かりません。 ・中学生にも授業時間も違うし、小学生の発達に悪い影響の方が多いと思います。 ・何故小学校と中学校一体型にするのかわかりません。発達段階もちがうし、お互いストレスがたまると思います。 ・小学校と中学校をなぜ一体校で一緒にするのか分からない。 ・いじめが増えないか？長期化しないか？ ・小中一貫校で児童になんのメリットが有るのか？ ・小学生と中学生と一緒に過ごす事は時間的にも空間的にも内容的にも無理があり、学校生活にストレスがたまり学習にも集中できにくい様に思います。 ・一体型にすれば、一緒に生活する中で様々な問題が起こってきます。その対応に追われ、肝心の子どもへの教育が、おろそかになって行くのではないのでしょうか。 ・小中一貫教育には賛成出来る面もありますが、小中学生を一つの校舎に入れないといけない理由が判りません。 ・「小中一体型校」の発想はどこから出たのでしょうか。例えば他県（他市）での成功例を模範にしたとか、或いは市民（地元）の強い要望があったとか。財政的負担に絶えられないとでもいうのでしょうか。 ・小中一貫にしてもデメリットばかりでいいことが無いように思います。発達段階や体つきが異なる小中学生を一緒にすることは、お互いの成長によくないし、心配も増えます。 ・一つの学校に小学生、中学生がともに過ごすのはいい加減な条件整備では混乱が生じます。	異学年交流の悪影響をご心配ですが、家庭や地域における人間関係が希薄になりつつある中で、異学年交流によって社会性（思いやり、コミュニケーション能力等）やリーダーシップを育成することができることや、児童の中学校生活に対する不安感の軽減により、小学校から中学校への移行がスムーズに行われ、中一ギャップ等の緩和につながるなどの効果があります。また、一人ひとりの子どもに多くの教職員が関わるができるようになり、一人ひとりの児童生徒が一層大切にされる教育が実現できると考え、問題行動の発生抑制にもつながると考えます。 文部科学省の「小中一貫教育等についての実態調査の結果」では、施設一体型小中一貫校のメリットとして、	
--	---	--

・施設一体型ということで、6 歳から 15 歳の子供が同じ建物内で長時間過ごす事になります。6 歳の子供に上級生の邪魔にならないようなキビキビとした行動を求めるのも、13～15 歳の思春期の子供に小さい子に配慮した行動を常に求めるのも酷だと思います。模範的な中学生ばかりなら良いですが、それ以外の悪い面を見た場合、小学生は正しく分別がつくでしょうか？テスト期間中は中学生は早く帰宅しますが、その時のザワザワした感じが小学生の授業の妨げにもなりそうです。小学生と中学生が一緒に通うのは不安。→体格差もあるし、正直悪影響を考えてしまう。対策は考えてもらえてるんだろうか。 ・学習面でも、全く違う小学校と中学校を一緒にすることにそれぞれに、全くメリットを感じない。 ・中学校と小学校を一緒にする必要があるのか全く感じられない。 ・色々な面から考えても一貫校にすることは、良いように考えられない。 ・小学生と中学生を同じ敷地内で教育することで、「安全や授業のため」ということで、これまで以上に細かく子どもへの対応マニュアル（規則）を決め、それを守るため教職員が忙しく動き回る姿が目に見えます。子どもも教師もストレスを抱えるのが「施設一体型小中一貫校」と思われます。 ・「小中一貫教育」を叫べばすべてうまくいくように思われますが少子化と財政健全化を理由に、小中一貫教育の一体型施設を推進するためとは、市民の不安を利用するやり方に思えてなりません。 ・（一体校は）小学校の時の（固定的な）人間関係が続くことを懸念します。 ・これまでの教育政策のどこを反省して、今回の「小中統合案」が出されたのか、わからない。 ・小中一貫、一体型校を新設することで、子ども達の教育条件や教育の内容が良くなるのか。 ・小中一貫校にすることの教育上の目的は何か？ ・施設一体型の小中一貫教育は、これまでの小学校・中学校と異なり、同一の敷地で小学生と中学生が9年間学ぶという学校です。児童・生徒にどのような影響	「いわゆる「中一ギャップ」が緩和された」、「中学校への進学に不安を感じる児童の割合が減少した」、「いじめや不登校の減少」などの報告がされており、教育効果は高いと考えています。 施設一体型の学校においては、上級生にとっては自分が認められる場面が多く、責任感が育ち、下級生にとっては、面倒を見てもらえるという安心感や憧れの気持ちを持つことができるなど、子どもどうしの関係に加えて、学習指導面では、小中学校の指導内容の系統性についての教職員の理解が深まり、協力して指導にあたる事が可能となります。 また、生徒指導面では、小中学校の教職員が日常的に情報交換ができ、多くの教職員が継続的・多面的に関わることで、子どもの持つ個性を十分に引き出すことが可能となります。小学校1年生から中学校3年生までが、同じ校舎で過ごすメリットを最大限に生かし、9年間の継続性、連続性ある生徒指導を行うことが可能となり、その充実を図ることができます。	
---	---	--

を与えるのかを明らかにすることが重要と考えます。 ・一体型校で小学校教育の満足度、中学校教育の満足度が得られるだろうか？中学生には思春期をうまく乗り越えてほしい。受験に成功してほしいという願いがあります。小学生のお世話は二の次にさせてほしいです。 ・「施設一体型小中一貫校」の建設の理由として、「中一ギャップ」の解消や小学生高学年の成長の早期化への対応等を上げられました。これら課題は、現行の教育制度でも十分解決可能な問題であり、どの学校もそれに対応しているのではないのでしょうか。 ・小中一貫の良い点、欠点を十分に検討して下さい。 ・教育上どんなメリットがあるのか、もっと解りやすく市民に説明すべきと思うのですが。 ・交小の敷地に小中 3 校を詰め込むのは問題がある。小中一貫教育の一体校は、もっときちんと説明してほしい。どういうメリットがあり、どういう欠点があるのか？ ・なぜ小学校と中学校を一体校で一緒にするのか？なぜ一体校でなければならないのか？もっと市民にわかりやすく説明してほしい。 ・小中教員の連携のとりやすさなどもあるとは思いますが、それ以上に、施設の利用が制限されるなら多くのデメリットもあるはずです。小中一体校のメリット、デメリットについて、もっと慎重な検討、議論が必要だと思います。 ・小規模校解消に小中一体型施設は論理の飛躍がある。交野市の小規模校の考え方の中に、複数クラスあればクラス替えが出来る、いじめがあったとしてもクラス替えで対応できるという考えがあるようですが、小規模を活用した少人数学級を進めることにより、行き届いた教育によって根本的に解決してほしいと思います校区変更によって調整をする。更に、建て替えなど必要になり、その時調整となれば小学校同志の統合が必要になる場合もありうるかもしれません。小中一体施設は、建築費は安くなるかもしれませんが、教育的な観点とは考えられません。		
--	--	--

・今の制度では 5・6 年生が、さまざまな場面でリーダーとして下級生をフォローし、目配りなどしてくれており、それが 5・6 年生にとっても自信や成長につながっている。それが一貫校になると保障されない。 ・6 年生は登校班の班長をしたり低学年の面倒を見てくれたり、運動会で活躍したり卒業の時は下の学年に祝福され見送られていくがそういった機会がなくなると、その経験もなく 9 年間も続きで同じ学校に通うことが良いことなのか？新たな気持ちで中学校に通うことも一つのステップになると思う。一体型一貫校で小中の授業時間のずれで小学生が休み時間でも静かにしないといけない、中学生にうるさがられる、小中互いにストレスが発生するとの報告を聞いた。その問題をどうするのか？ ・子どもの発達段階が大きく異なる子ども達を一か所に集めることによるデメリットが大きいと考えます。今の 5・6 年生の子ども達が最高学年になることへの自覚、小さい学年へのいたわりとその取り組みの中での自己肯定感が育っていくことの貴重な体験は得がたい大切なものです。 ・小学 6 年生は、小学校の最上級学年として積極性・リーダー性が大きくのびる時です。小中一体校で小学生中学生の 9 年生が一緒になる中で、小学高学年の成長が妨げられます。 ・「施設一体型小中一貫校」にすることで、小学校 5・6 年の高学年としての自覚・自立を奪う可能性あり、現行制度の優れている点に着目してほしいと思います。 ・最高学年としてがんばる成長の場面が減ることになるのでは・・・と心配です。(2 件) ・グラウンド、プール、特別教室、45 分と 50 分の授業時間の違いなど意見交換会で出された不安、小学 1・2 年生と中学 2・3 年が同じ施設で生活することや小学校 5・6 年生のリーダーシップの発揮をどこでするのかなどは施設以上に考慮しなければならない課題ではないでしょうか？ ・児童は同じ校舎の中で、日頃から顔を知っている〇〇先生ですから、躊躇する	文部科学省の「小中一貫教育等についての実態調査の結果」では、施設一体型小中一貫校においては、小学生高学年のリーダー性・主体性の育成などの課題が報告されており、施設一体型小中一貫校設立となれば、9 年間の区切りや活躍の場の工夫を検討する必要があります。それぞれの発達段階に応じたリーダー性を育むことは大切であると考えており、各学年において下級生をリードする態度を身に付けてほしいと考えます。 小中一貫教育は、教職員の資質向上にもつながりま	
--	--	--

ことなく、職員室を訪ねられます。そして、専門的な知識を手に入れ、知的好奇心を満足させることができます。一貫校の中学部の先生は、時々小学生が質問にやって来る。という事になると、自分の持っている知識を小学生にも理解できるように、丁寧にゆっくりと説明する技術を、日頃から鍛えておく必然性が生じます。これは、小学生のためになるだけでなく、日頃の中学生に対する授業で、理解のスピードの少し遅い子に対する丁寧な授業に資することになります。ですから、施設一体型一貫校は児童にとっても、生徒にとっても、先生にとってもメリットのあるシステムです。一体型一貫校は日頃の授業の改善という日常業務で子どもの個性を伸ばすことが可能になります。	す。小中学校の教職員がお互いに協力し、小さいころから中学校の先生にも見てもらう、小学校の先生も子どもが中学校に行っても、子どもが悩んだ時にすぐ相談に乗れるような体制作りは必要と考えます。	
---	--	--

(5) 学校適正配置の可能性

151件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
学校適正配置の方向性を定める方法・過程について		
・評価表については、小中一貫教育が配点の多くを占め、逆に子どもにとって重要な通学距離が伸びる地域があるにも関わらず「望ましい状態」とされ、さらにこの項目のみ「特に望ましい状態」に当てはまる条件を無くしており小中統合案の配点が高くなるようにしている。どこが客観的かつ多面的評価なのか？ 近隣施設の活用とは何なのか具体的に書いていない。子どもたちを何かの度に近隣施設に移動させるとは全く現実味がなく危険性もあるのに無責任で都合の良い事しか考えていない。 ・結論に至る理由として審議会の答申、懇談会で意見を聞く場を設けたとあるが交野市のごく一部の人。それで市民の意見を聞いたつもりになっている。なぜ幅広い保護者や市民に聞かないのか？学校再配置の流れの中で子どもたちに何の意見も聞かず話を進めている。子どもたちの学校なのだから勝手に決められるより課題を出しどうするのが良いか子どもたちに考えてもらえば良い。 ・懇談会概要を見れば建設的でない内容がうかがえる。全ての班から施設一体型一貫校が望ましいという意見が出されたというのは、各班にその意見の人がいたというだけで各班全員の意見ではないのに、全会一致で決まったという印象を受ける。審議会にしても様々な意見が出たはず。委員全員がこの結論に達したのか？第一統廃合を進める立場の人物をどういう経緯で委員に選んだのか？ ・ワークショップの手法は、「既成概念を打ち破れない時」や「こんな考えもある」とお互いを知る時には、有効といわれていますが、出された意見を批判しないという制限がつけられていますので、テーマに対する考えが、お互いに違う場合、問題点を出し合い、理解し合いながら結論を見出すためには、疑問が残る方法といわれています。市民の中で大きく意見が異なる可能性のある課題で、市民の意見を問うと場合の手法として、今後もワークショップを使うことには反対	学校規模の適正化・適正配置は、平成28年度に市立小中学校及び市立幼稚園の保護者・教職員を対象に、「学校規模適正化に関するアンケート調査」を実施し、交野市学校教育審議会へ「市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置等について」を諮問いたしました。（審議会委員は学校・地域など様々な視点から諮問内容をご審議いただくため、公募委員も含め、一般市民、市立学校長、市立学校教職員、市立学校PTA会員、学識経験を有する者から選任されています。） 審議会では、アンケート結果も参考にしながら、学校規模のメリット・デメリットや適正な通学距離の範囲を検討し中間答申のパブリックコメントを経て市教育委員会で「学校規模適正化基本方針」を策定しました。また、審議会では「学校規模適正化基本方針」に基づいてまとめた、学校適正配置を検討する上での基本的な考え方に沿って、すべての学校適正配置案についてもメリット・デメリットを検討しました。 検討にあたり、すべての配置案に共通する項目で比較することで、より客観的かつ多面的な評価ができるものとして、学校適正配置案の評価表を資料のひとつとして作成していますが、評価点のみで配置を決定するものではありません。 ワークショップについては、様々な立場からの意見を	4件

です。	求めるため、市民どうしの対話によって、互いの意見を理解し、尊重しながら、多くの意見を聴取する手段として有効だと考えます。	
市内の中学校区で教育環境に差が生じる可能性について		
・本当に良い教育条件整備ならば、なぜ第一中学校区だけに設置するのか。 ・どうして1中校区だけ一体校にするつもりなのですか。2、3、4中校区や交野市全体の教育環境や制度を考えたシステムにして欲しい。 ・市内中学校区でちがう学習形態の学校ができることは教育条件に差異が生じることとなり市民の教育に対する疑問が生じるのではないのでしょうか？ ・小中施設一体の一中校区と小中施設分離の二・三・四中学校区とに大きな差がうまれます。学力や成長に与える影響をはじめ、グラウンド・プールなどの教育条件でも差が生まれます。同じ行政の中で、このような差異を生み出すべきでないと考えます。 ・一中校区だけ一体型校になり、他の2・3・4中校区はこれからどうなるのですか？ ・交野の小さなまちで、小中一体校と現状のままと教育環境がバラバラになるのは子供にも戸惑って父母も交野の教育方針に疑念をもつ、もっと慎重に考えてほしい。 ・一中校区の施設一体型が最もすぐれているというのであれば、すべての校区で完全実施すべきです。 ・一中校区は施設一体型、二中校区は施設分離型で進める(三中・四中は未定)ことになっていますが、これは同じ市内であるにも関わらず、校区によって制度的な教育環境格差を導入ことになるので反対です。市内のどこに住んでいるかによって、教育環境に格差があってははいけません。やるなら全校区での一体校の推進宣言を出すなり、でなければ当面は全校区とも分離型で進めて頃合いを見るべきでしょう。	小中一貫教育については、平成32年度よりすべての中学校区で実施することとなりますが、施設形態にかかわらず、小中連携教育を土台に、小・中学校の教職員がめざす子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざします。 学校適正配置を検討するにあたっては、すべての中学校区において、地域の事情や独自の課題等を考慮し、校区変更、小学校どうしの学校統合、小中学校の学校統合の考えられるすべての学校適正配置の配置案を作成し、検討を行った結果、本計画（素案）で示す各中学校区の学校適正配置の方向性となっています。 第一中学校区については、交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合し、現在の交野小学校敷地に施設一体型の小中一貫校を設置する学校配置が、第二中学校区については、当面の間、2小1中の現状の接続関係を維持する学校配置が望ましいと考えます。第三中学校区および第四中学校区については、大規模な住宅開発の影響を受けることから、当該住宅開発の動向を注視しつつ、将来に向けた望ましい学校適正配置を検討することとします。	12件

・なぜ1中校区だけを一体校にするのですか。他の校区との教育環境がバラバラになることで、多くのリスクや課題が生じると思います。 ・一中校区だけが一体型校になり、二中・三中・四中校区は今のままだと、市内の教育環境に大きな差が生じます。 ・一中校区が小中一貫校のモデル校といいながら全校区で同じように施設一体型小中一貫校を進めないのではモデルになっていない。一体型と分離型で施設形態に大きく差が出てくるのに同じ小中一貫教育だと言うのはおかしい。		
第一中学校区における学校適正配置の方向性について 第一中学校区に、施設一体型小中一貫校を設置する場合、配慮が必要と考えられる事柄について、いただいたご意見を踏まえ、第5章 学校適正配置の可能性、2. 第一中学校区、(3) 学校適正配置の方向性 (P.44) に、「なお、統合に伴う通学の安全確保や、児童と生徒が同一敷地内で学校生活を送るための施設面及び運営面の工夫、また施設整備の工事中の学校運営など配慮が必要となる事柄について、学校や保護者、地域の方々と十分に協議調整のうえ、魅力ある学校づくりを進める必要があります。」の記載を追加いたします。		
① 第一中学校区における通学について		
・小1のまだ幼な児が、1時間近くかかる交野小学校まで、梅が枝から行くことに、怒りをおぼえる。 ・長宝寺小学校から遠すぎる。歩道が危ないと思う。 ・長宝寺小学校から交野小学校まで行く事になると通学距離が長くなり、歩道のない危ない道路が多いので心配です。 ・車が多く通学距離が長い所は親として心配です。 ・長宝寺小学校から交野小学校までは通学距離が遠いので低学年の子達は特にしんどいし、事故等の心配あり。 ・長宝寺小学校からまで行くことになる通学距離が長くなり、歩道のない通学路が多い。心配です。 ・通学距離の遠長も負担増となるのではないのでしょうか？又、通学時の安全という面でも不安に思っています。	児童生徒の通学距離について、本市では、小中学校の適正配置を考えるうえでの望ましい通学距離を「学校規模適正化基本方針」で定めており、現在の通学実態等を踏まえ、適正な通学距離の範囲は、小学校で2km以内を基本としています。第一中学校区の適正配置の方向性で示す学校配置となる場合は、通学距離が現状と比較すると伸びる地域がありますが、適正な通学距離を超える地域はないものと見込んでおります。 通学の安全確保については、関係機関、関係部署等と連携し、改善・充実を図るものとします。 また、学校施設整備の際には、学校周辺の通学の安全確保もあわせて取り組むことが必要と考えます。	18件

・通学路が遠くなるのは、極力避けるべきです。 ・長宝寺小学校から交野小学校まで行くことになると通学距離が長くなり歩道の ない危ない道も多いので心配です。 ・長宝寺小学校から交野小学校まで大変遠い小学 1 年生の子が通学には無理があ る。 ・梅が枝地区の児童は通学距離が長くなり、通学時、帰宅時の危険度が大。 ・統合がされ、週明け・週末の荷物の多い日、雨の日、暑い盛りの日、片道 2 キ ロ以上の道を歩くことになる。小学校 1 年生の子どもたちの身になってかんがえ てほしい。それを見守る親の立場で考えてほしい。 ・現状の交野小学校の周囲に、歩道はほんの一部にあるだけです。そこに中学生 も通うことになると、歩道が必要になりますが、その改善が望めなくなるので は……。 (2 件) ・児童の安全確保のため、通学に 30 分以上かかるので、低学年にはスクールバ スなど配置する必要がある。 ・私部村中の道幅は、非常に狭いので、安全面の対策をとらなければなりません。 校区が広がる分危険がいっぱいになります。 ・今より学校が遠くなる地区がある。特に梅が枝地区の子どもたちはかなり遠く なる。通学距離の負担をどうするのか？実際に通学距離が伸びる子どもが存在す る。勝手に学校を変えさせられたあげく子どもに何か起きた時責任取るのか？ 通学中の荷物の重さについて今問題になっており国からも配慮するよう通達が出 たが教科書を置いて帰る事は許されず長期休みはすべての道具を持って帰ら され現状何も変わっていない。どうなっているのか？ ・長宝寺小はかなり通学路の安全性があるが、交野小の周りは歩道もなかったり 車がよく通る道があると聞く。ただでさえ遠くなるのに危険を増やしたくない。		
② 第一中学校区における学校適正配置の方向性について（配置）		
・学校適正配置の方向性では、評価点を根拠としての結論であると記載している	学校の規模適正化・適正配置は、平成 28 年度に市立	3 6 件

が、何故か？ 審議会の目安であるだけの評価点であり、これを根拠とするのは意味が変わってくる。 現実的に即実行可能なのは、校区変更案のいずれかである。しかし地域の分断と訳の分からない文言で切り捨ててはいるが、分断ではなく融合である。 ・交野小学校と長宝寺小学校の合同から考えるべきだと思います。 ・長宝寺小は郡津小にするべき。 ・長宝寺小が小規模校に該当するから、「適正規模化する」「2小1中の統合」との結論が出されていますが、まずは校区変更で対応すべきではないでしょうか。「小中一貫教育への学校の距離」の評価項目を除けば、長宝寺小の校区変更案（4）が検討案の中で最高点の評価が行われています。このことは、校区変更案が最大の有力案であったことを示すものと言えます。コミュニティーなどの関係で、校区編成の対応が出来ない場合は、長宝寺小と交野小の小学校の合併とし、中学校の合併は中止すべきです長宝寺小の良さを壊さないでください。小規模校の良さを生かして、このまま続けるべきと考えます。 ・長宝寺小の学校規模により「どのようなマイナス面・プラス面があったのか」「小規模校を適正化しなければならない理由」が、長宝寺小の学校教育面から具体的に示されておりません。このことを具体的に示すことにより、学校教育の在り方に大いに参考になるし、今回の3校の統合にも説得性を持つものになるでしょう。 ・長宝寺小が小規模の問題は校区変更ではいけないのか。 ・一緒の敷地内に詰め込むメリットが解かりません。 ・分離型で小中一貫教育ができるのなら、一中校区も分離型で実施すべきです。 ・なぜ、1中校区のみ一貫校なのか？ ・今ある施設を使って校区変更をすとか、隣接であっても別々の施設での小中一貫校にするべきです。 ・どうして今のままの小学校中学校ではいけないのでしょうか。何か不都合があ	小中学校及び市立幼稚園の保護者・教職員を対象に、「学校規模適正化に関するアンケート調査」を実施し、学識者や学校関係者、市民で構成される交野市学校教育審議会へ「市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置等について」を諮問いたしました。 審議会では、アンケート結果も参考にしながら、学校規模のメリット・デメリットや適正な通学距離の範囲を検討し、中間答申のパブリックコメントを経て、市教育委員会で「学校規模適正化基本方針」を策定しました。 策定した「学校規模適正化基本方針」に基づいてまとめた、学校適正配置を検討する上での基本的な考え方に沿って、将来的にも適正な学校規模となるよう校区変更案や小学校どうしの統合案、小中学校統合案について、メリット・デメリットを検討し、第一中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会からの意見も踏まえ、第一中学校区の学校適正配置の方向性としては、現在の交野小学校敷地に、交野小学校、長宝寺小学校、第一中学校を統合して、施設一体型小中一貫校を設置する学校配置が最も望ましいと考える答申が出されました。（懇談会は、第一中学校区における学校適正配置等を検討するにあたり、公募市民を含む、保護者、地域住民等から意見を求めるため、開催しました。） 市教育委員会としても、学校適正配置の評価表や各配置案のメリット・デメリット、懇談会でいただいたご意見や審議会からの答申を踏まえて、交野小学校・長宝寺小学校・第一中学校を統合し、現在の交野小学校敷地に、施設一体型一貫校を設置する学校配置が、将来にわたっ
--	---

るのでしょうか。長宝寺小学校の生徒数が減っているのが問題ですか。 ・一貫校にすることのメリットがわからない。校区変更で十分だと考える。 ・小学校と中学校の分離型を切に望み、交野の未来を担う子らの成長を応援したく思います。どうしても建てるなら小学校と中学校別々の校舎があるという分離型をめざしてほしい。敷地を広げ児童一人当たりの床面積を少しでも広げてあげて下さい。交野小学校周辺で土地が広げられないのなら、一中跡に小中一貫校を建設されてはどうでしょうか？そこなら、私部グラウンドも近い方がいいのかも。 ・クラス替えができないのが問題ならば校区を見直せばよいと考える。 ・校区変更で、クラスの数を増やすといいと思います。 ・校区を変えることで長宝寺小学校をなくさないですむのではないですか？ ・長宝寺小学校と交野小学校が統合する事は各々不満はありつつも納得できる事だとは思いますが。しかし、第一中学校との統合し小中一貫校にするというのはちょっと乱暴でないかと思います。 ・せめて施設隣接型の学校である事を希望します。 ・一体校にするメリットがよくわかりません。デメリットの方が多く感じます。 ・なぜ長小・交小・一中の一体型校なのでしょう。小中一貫教育の論議がある中、なぜ交野市の公立校で一体型校なのでしょう。 ・中学校はくっつけなくてもよい。 ・交野らしい広々とした校庭を持つ立派な長宝寺小学校をなくさず、校区変更で、児童数の適正化を計ってほしいです。 ・何のために長宝寺小や1中をなくすのですか？これから人口増になるのでは？ ・校区変更案でも適正規模を維持できるとしているのになぜそうしないのか、結論に至る過程、結論付けた理由の中身が書いていない。 ・教育環境が悪化するのが目に見えているにもかかわらず、それに対して高評価を出したり、検討すらしていなかったりするの、初めから結論ありきと思われるので、再検討を要望する。	て、児童生徒の良好な教育環境を確保することのできる学校配置と考えます。	
--	--	--

・学校区を再編したりＩＣＴを活用することで、一体型校をつくらない方法があると思います。その方が、新築の予算・移転の負担や時間もかからないと思います。(2件) ・小学校と中学校は授業時間をはじめ、様々なことが異なることから、交野市としてどのような教育を提供していくのか、今までの教育とどう変わるのか(変わらないのか)を施設配置の前に先に提案、議論、説明するべき。 ・学校適正配置に関し、一中校区においても数々の配置案が検討されており、今一つ検討されていない、長小校区の内、郡津・梅が枝を郡小に、私部・私部西を交小にと分割する案です。交野市都市計画マスタープランにおいても、この地域割りで今後のまちづくりに関する方向性や地域別構想を定めているとのことです。ので、むしろより適した区割りではないでしょうか。 最大の問題点は"長小校区"という既存のコミュニティが分断されることですが、この点に目をつむれば、学校規模、一貫教育への適応、通学距離、共にそこそこの好条件になります。一中校区が1小1中になり小規模化するとの意見もあるかもしれませんが、一体校を前提とするのなら1小1中は問題ではなく、むしろ一体校のマンモス化・過密化を軽減できて良いのではないのでしょうか。 ・長宝寺小学校の学区でも、郡津小学校の方が近い方はそちらに選択できる方にするべき。一貫校になった場合も交野小学校へ行くか、郡津小学校へ行くか選択できるようにすべき。 ・三校がひとつになると、先生方の人数も減り、クラスの数も増えてしまいます。先生と生徒のふれあいの時間が少なくなるのでは・・・。(2件) ・統廃合でいきなり学校が変わる事、小規模で過ごしてきた子どもたちがいきな	これまでに培われた地域のコミュニティにも配慮する必要があることから、現在の中学校区を基本として、学校適正配置の検討を進めており、本市では、学校選択制の導入は現在検討しておりません。 教職員の人数については小学校部分の定数(国基準で定められた数)と中学校部分の定数を合わせた人数が基本となります。 本市では、小学生が中学校で過ごす中学校の日や中学	
---	---	--

り「適正規模」の中で過ごす事、いきなり中学生と同じ学校になる事での子どもたちの心の影響への心配がある。 ・学校がなくなれば余計に人が来ない地域になる。 ・梅が枝にとって、小さな子達を迎える事の出来る住宅です。もっと活用し、いきいきした地域になるよう、府にも要望し、学校規模への対応していきましょう。 ・周辺の自治体をみても、学校統廃合で学校がなくなった地域は衰退し、跡地利用も進んでいない例を見かけます。跡地利用のあり方検討抜きの今のやり方は、負の遺産を増やすことになるのでは・・・。	校区の小学校どうしの交流などをおして、中学校区の児童生徒のつながりを深めています。 学校適正配置により、新しい学校を設置する場合には、当該学校区の地域にとっても、魅力ある学校づくりに取り組みます。 なお、学校適正配置により、学校施設として使用されなくなる施設等の今後の在り方については、関係部署とも協議し、検討が必要と考えます。	
③ 第一中学校区において施設一体型小中一貫校を整備することとした場合の施設整備について		
・交野小学校の狭い敷地内に小学一年生から中学三年生までの子どもたちが集められるのですから。グラウンド・体育館・プール使用などはどうなるの？特別教室は、チャイムは、放課後の活動は…？ ・小中一体校のプールは「いきいきランド」を使うことを検討すると言っているが、基本的に学校で行うべきである。 ・今の場所に運動場、プール等むつかしいと思います。 ・クラブ活動が小学生・中学生が混じってできるのか？ ・小学生と中学生の授業時間の違い、又、プール等の施設はどうなるのですか？不安な事ばかりです。 ・プールや体育館運動場の利用が今まで通りできるのでしょうか？疑問は他にもたくさんあります。 ・1950年代、中学生の頃しばらくの間、少し離れた小学校の校舎に通っていました。そのころの記憶に休憩時間は静かにしていることや昼休みの運動場での球技制限などがあります。運動場に縄が張られて向こう側を使えなかった記憶もあります。今回の計画はそうならないとは言いきれない内容です。あれから60年余絶った今の子供にそんな思いをさせないようにお願いします	学校施設整備や運営等につきましては、今後、学校や保護者、地域の方々とともにワークショップ等を実施し、多くの方の思いを学校施設整備に反映させるよう、他の自治体の取組みも参考にしながら、検討が必要と考えます。 交野市学校教育審議会からの答申の付帯意見や第一中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会でのご意見にもありましたように、グラウンド等を小中学校で別々に確保することは、学校統合を行う場合の配慮として求められておりますことから、検討が必要と考えます。 加えて、本計画（素案）のパブリックコメントにも、グラウンド・屋内運動場・プール・図書室・保健室・支援学級・特別教室など、学校規模にふさわしい教育環境	55件

・運動場、体育館はどうなるのでしょうか？交野小に、十分な広さがあるのでしょうか？計画の全容がわからない。 ・せまい、学校や設備で子供たちの発達に悪い計画はやめて下さい。子供の幸せを第一に考えて下さるようお願いします。 ・現在の交野小学校の敷地に、旧給食センター跡地を加えた場所に、2小1中を統合するとの事であるが、施設的な面の基準的な理想スペックであるが、小と中の校舎は別、校門も小と中は別々、グラウンド、体育館、プール、理科室、音楽室、保健室、図書館、特別学級、図工技術室の類、視聴覚室の類、全てが小と中のそれぞれに必要である。グラウンドの広さはそれぞれの元の合併前の小学校や中学校の持っていた広さを最低限確保。交野小学校跡地にそのような最低限必要と思われる学校施設が建設可能か？ ・交小・長小・一中を統合して交小跡地に作る一体校は、児童・生徒数1000人以上、クラス数30学級以上の、明らかに適正規模を超えたマンモス校になります。もしこれが一中跡地なら、文科省の定める基準を満たせないほどの、超過密すし詰め校にもかかわらず、一人当たりの面積ではなく、単に総敷地面積が広いというだけで、評価表が"◎"になっているのも驚きです。 ・特別教室の割り当てが学級数学年数が増えることによって少なくなり使用数が減らされます。授業内容等の質にも影響します。体育館運動場を学級数がふえることにより、2～3学級が同時に使う場面が出てき、教具の使用や広さにがまんを強いられることが出てきます。また、運動場を学校敷地外に作るとその往復だけで授業時間が削減され、子ども達の授業を十分に受ける権利を奪うことになります。プール使用においては学年人数がふえ一人ひとりの使用時間が減少します。運動場を多人数で遊びで使用する事になり子ども一人あたりの面積や時間が減られ子ども達の遊びも十分に保障されません。また、多人数での発達段階の違う子ども達が使用することにより、けが等が増えていることが報告されています。 ・心配事としては、中学生のクラブ活動が体育館でも運動場でも制限されてしま	の確保を心配されるご意見をいただいていることから、教育上必要な機能の確保に努めてまいります。	
---	---	--

うのではないかということです。 ・第一中学校跡地を中学のクラブグラウンドとして使用する、といった案を持っているが、せめて道1本を隔てた程度にするべきである。 ・1中校区の小中一体校の案について、交野小敷地では面積も狭く、小中学生の十分な活動場所が確保できないと考える。体育館やグラウンド、プールなどを使用する小中の時間割編成など、とても困難になるのではないか。一中校区の一体校では、プールやグラウンドなどについて、いきいきランドの使用も含めて、今後検討するとの説明でしたが、子どもの教育に必要なもので、他の施設と兼用するのは本末転倒であり、当然学校内に必要な体育館、グラウンドなどを小中別々に整備すべきと考えます。 ・「とかいなか」で自然環境に恵まれた交野だからこそ、このゆったりした教育環境を守ってほしい。交野小敷地の一体校では、すし詰め、ゆとりのない学校になってしまうと思う。 ・運動場・特別教室、チャイムなどの問題、デメリットしか思い浮かびません。 ・交野小学校敷地内に長宝寺小学校・交野小学校・第一中学校3校を詰め込むのは誰が考えても（特に教育に携わる）正気ではありません。図書館は、プールは、体育館は、特別教室はどうするのですか。 ・校舎や教室配置、グラウンドの広さはどうなっているのでしょうか。 ・中学校はいまでも、部活動で、グラウンドや体育館を交替しながら使い、「もっと使いたい」との声を聞きます。小中一体校にすることで、小学生の行事や授業との関係で、中学生の部活動で使えないことが出てくるのでは？小学生への安全上などの関係から、中学生のパワーを十分発揮できないが増えるのではと心配します。 ・小学生と中学生が施設を使うことで不足し、結果としていきいきランドのプールを使う可能性もあると聞きました。引率はどうなるのでしょうか？担当学年の先生が引率するのだと思いますが。学校運営も先生方の人数もぎりぎりです。やっていっちゃうと思います。そんな中で学校から施設までの距離を、絶対に安全に		
--	--	--

引率するとなると、十分な人数が必要になると思います。そういったことに対してどう対応される予定なのか、心配です。 ・プールは必要だと思う。 ・中学生とのグラウンドの使用区域は一緒になるのか。グラウンドも体育館も別々に作らないと中学生はのびのびと球技や運動を行えないと思います。 ・小学生と中学生では身長差がすごく大きくて、階段の蹴上げの高さや、プールの深さ、体育館の舞台の高さ、体育館ヨコ男子便器の高さなどちぐはぐが生じます。(2件) ・三校分を交野小学校敷地に押し込もうとすると、他の一体型校のように5階建て以上になるのでは……。休み時間にグラウンドまで下りてこなくなるのでは……。 (3件) ・交野小学校敷地に給食センター跡地を加えただけのスペースで、グラウンド・体育館・プール・図書室・保健室・支援学級・特別教室を小中別々に造れるのか？ (3件) ・やはり、一体型校の姿や形の素案の提案必要。今は、それがまったく無い。 ・グラウンドやプール体育館など問題ないのか不安です。(3件) ・交野小学校に一中校区を統合する案では、グラウンド・プールを各2か所設置することが明確になっていません。基本計画素案には、私部公園やいきいきランドの利用が書かれていますが、離れており現実的ではありません。 ・一中校区案について、三校を統合し交野小敷地に施設一体型小中一貫校を設置と書いているだけでその中身がまるで書かれていない。校舎やグラウンドの配置、小中学生一緒の学校生活に不便や支障が出ないようにする工夫など。交野小敷地(+給食センター跡地と言ってもわずかな敷地)にどうやって小中千人近い子どもたちが過ごす施設を作るのか？校舎は良いとしてもグラウンド、プール、体育館、また中庭のように子どもたちが過ごしたり自然に触れる場所などが大事で今の各学校ほどの余裕を持った設計ができるのか？ - 一中やいきいきランド等のグラウンドやプールを使うつもりなのだろうが授業		
---	--	--

の度に子どもたちには移動をさせるのか？ 三校の各学校の良さを失わずすべて取り入れた一貫校にできるのか？長小では少ない児童数で先生たちが子どもをよく見てくれている。教室にも余裕があり運動場も広い。周りは遊歩道で自然もあり車の心配もない。この環境を新しい一貫校でも必ず保障するのか？ ・交野小学校と給食センター跡地だけで、課題とならないような施設が賄えるのか？（グラウンド、プール、特別教室の数、広さの確保等） ・小中一貫、一体型、グラウンドは各準備して欲しい。 ・一中校区に小中一体型校を作るといわれるなら、十分にしっかりとした良いものを作っていただきたい。ただし、小中で一緒に活動したいときは一緒にでき、分けて活動したいときは分けられるように、小学校と中学校の校舎を併設することを希望します。もちろん、運動場も2つ、体育館も2つ、プールも2つです。どうぞよろしくご検討お願いいたします。 ・交野小学校の敷地に小中三校を詰め込むのは無理があると思います。グラウンドや体育館、特別教室などは小中別々に確保できるのでしょうか。中学校のクラブ活動はどうなるのでしょうか。 ・小学校一校分の敷地に小中をつめこむのは無理があります。 ・交野小学校の敷地に小1から中3までを詰めこむのは無理がある。「たとえば、いきいきランドの活用」と説明されたが、いきいきランドを活用すれば市民が犠牲となる。 ・交野小学校の敷地に1000人を超える小中学生を入れるスペースがあるのか不安です。 ・三校をひとつの学校に押し込んで、今の教育条件を守り向上させることができるかどうか、具体的な説明がないから（4件） ・子供たちに、広々とゆったりとした好環境の校舎で、一人一人に寄り添う教育を！		
--	--	--

・交野小は歴史のある学校なので残すべきです。 ・交野小学校の伝統の美、百年の森は「これから百年続きますように」の願いがこめられていますので、こわさないでいただきたい。 ・交野小学校は、交小の森や百年の森など豊かな自然を育てて、それを更地にしてしまうのは、貴重な財産をうしなうことになり、もったいない。 ・わたしは かたのしょうがつこうに いきます。 おにわ ゆうぐ うんどう じょうがだいすきです。 ずっとかえないでください。 ・子供達の負担が最小限である事と安全安心な学校ができる事を心から願います。	本市の市立小中学校の中には、創立 140 年を超える学校もあり、学校の伝統や歴史を尊重しつつ、平成 32 年度から実施される次期学習指導要領や、全中学校区で実施する小中一貫教育などに適する、新しい教育環境の整備も必要と考えます。子どもたちがいきいきと、健やかに学校生活を送れるよう、また、豊かな自然環境の確保等は、今後の学校施設整備の際にも配慮が必要と考えます。	
④ 第一中学校区において施設一体型小中一貫校を整備することとした場合の運営面について		
・時間割が違う・運動場の使い方が違うなど、不具合が出ます。6 年生で卒業する大切なけじめをなくすことになり、精神的な切り替えを経験することなくなる。 ・小学生と中学生がどう同じ学校で過ごせるのか？心身の発達の違い、小と中での施設の使い方の違い、時間の違いなど、他市で小中一体型一貫校が進んでいると言うが他の一貫校でこれらの問題が出ているのに検証しているのか？問題を解決できる方法を持って一貫校を提案しているのか？ ・サブアリーナ（第二体育館）とプールは、敷地外（できれば隣接地）に設けていただきたいと思います。これらの施設は、民間業者（例えばミツノやコナミ）にインストラクター付きで委託していただきたいと考えています。（温水プールとなるので）水泳の授業の日程を運動会前の忙しい時期を避けて、一年中任意の時期に設定できることや、学校がプールの管理業務を行なう必要がなくなること等が想定されます。 将来、再配置計画に基づき、公民館（地域コミュニティルーム）・保育所・高齢者施設・地域図書館等のスペースとなることも考え、これらの部屋は、学校の低層階に学校の外側からも内側からも入れる構造の部屋を 3～4 部屋作って下さ	授業時間等の違いについては、授業時間と休み時間の差を設けるような学校運営面での工夫や、教室配置などの施設面での工夫も考えられます。 学校行事の持ち方については現在開校している施設一体型小中一貫校の取組みも参考にしながら今後検討していくことが必要と考えます。 なお、学校生活面において、基本的なルールや規律を守ることは施設の形態に関わらず必要なことであり、授業中は静かに廊下を歩くなど、学校生活の規律は、現在でも指導しています。	17 件

い。 ・授業時間の違い、行事（運動会、修学旅行、授業参観など）は、どうなるのでしょうか。 ・小学校 45 分授業、中学校は 50 分授業では、同一校舎でチャイムが混乱するのでは・・・。 ・中学生のテスト期間中は、小学生の外遊びが制限されたり、「静かに！」と注意されると聞きます。のびのびした学校生活が制限されるのでは・・・ ・授業時間の相違は子供達に平安な気持ちで勉学に励めるのか不安である。 ・すでに実施されている学校ではチャイムの問題や中学生のテスト期間中の小学生の活動規制など困難をききます。 ・時程のずれによる混乱が起きます。小学校では 45 分授業中学校では 50 分授業になっていますが子ども達の混乱や思いきり声を出して遊べないという実施校で報告がされています。ましてや中学生のテスト期間中小学生はがまんが強いられることになるかと予想されます。 ・卒業式、入学式、運動会、体育祭、文化祭などの行事が成長する場となっています。これらをどのようにするのか、示されていません。大変心配されます。 ・運動会は 9 学年合同でするのですか？出場回数が減り、子どもの活躍する場面が減るのでは・・・ ・6 年生の卒業式はなくなるの？修学旅行の意味合いも変わるの？		
⑤ 第一中学校区において施設一体型小中一貫校を整備することとした場合の整備期間中の対応について		
・校舎たてかえの折には、交小の子どもたちは、長小に行くとか、支援が 6 クラスある今、全員にそれだけの施設を準備できるのでしょうか？ ・小中一貫教育のモデル校区としてどのような学校をどんな様々な配慮をして、ここに作るのか、また工事中は交野小学校の児童に対してどのように対策を取るのか、どこでどのように学校生活を円滑に支障なく送らせるのか、といった案も同時に記載するべきである。	学校施設整備期間中の子どもたちの学びの場の確保は、仮設校舎での対応や、他の学校施設を利用することでの対応等の方法が考えられるため、学校や保護者、地域の方々とともに検討する必要があると考えます。 放課後児童会等については、関係部署と連携し、学校施設整備の進捗にあわせて望ましい運営を図ります。	9 件

他の校区は近隣の様子を見て現状維持、というはっきりと具体的に示してあるのに、肝心の1中校区については、無責任な中途半端な記載では素案として不十分であり、交野小学校の跡地が実はふさわしくない、となった場合に無意味な素案になってしまう。 ・今でも、学区ギリギリの子達は、30分くらいかけて登下校する児童もいます。それ以上かかるとなると、かなりの負担になること、安全性も心配です。 ・工事期間中、長宝寺小学校に通わせるのは距離が遠く不安。スクールバスなどの対応はあるのか。長宝寺小学校へ通うとなると、通学路の安全性の確保について心配です。 ・できれば仮設校舎を建ててほしい。 ・交野小学校跡地に一体校が建つまでの期間中、交小校区児童は長宝寺小に通うことになるでしょう。長宝寺小学校に全員が収まるのは、むずかしいのでは・・・。通学路の安全確保は整うのでしょうか？エアコンの増設・インターネットの環境整備予算も相当額が必要になるのでは・・・。 ・学童保育についての運用も、長宝寺と統合されるのか。開始時期はいつ頃かなのか。		
---	--	--

(6) これからの学校施設の在り方

9 件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
これからの学校施設の在り方について		
・地域の避難所はどうするのか？ ・長宝寺小学校や1中がなくなれば地域の人たちの避難所がなくなるのでは？ ・長宝寺小や一中がなくなれば、避難所はどうなるのか？今は、その提案がまったく無い。後手の対応は不安です。 ・地域においての学校の必要性についての記載がない。 教育委員会として、地域と既存の学校は互いに関係のない存在との考えか？ そうでないのならきちんと記載せよ。 ・学校は本来の役割である児童生徒の教育施設であるだけでなく、災害時の避難所や市民の様々な社会教育活動の活動場所として、グラウンドや体育館が大きな期待を担っています。 現代の要請として、公民館・地域図書館・幼児施設・高齢者施設等を加えた、複合的な機能を持つ学校施設が期待されています。 ・学校はただの建物ではない。教育・地域の文化・避難場所など、多くのものを支えています。簡単に、場所をかえたり、内容をかえたりするものではないと考えます。 ・他市町村で進んでいるという複合型学校施設を検証したのか記載がない。 ・統合され、児童生徒のいなくなった学校施設についても、前述の社会資本として、必要な部分（例えば、グラウンドのみ・校舎の一部）を、学校の第二グラウンドや体育館を兼ねた、地域の社会活動の拠点として残せばよいと考えます。	本市では、すでに放課後児童会機能や防災備蓄機能などが学校施設と複合化されているほか、学校施設は、災害時の避難所に指定されていたりするなど、様々な役割を担っており、今後ますます地域の拠点として活用されることが期待されます。 今後、学校施設整備を実施する際には、学校教育活動を行うための場であることを前提に、地域の力を教育に活かしたり、地域の方々も利用しやすい施設整備を検討していく必要があります。 昨今の大規模な災害への対応などから、避難所機能の確保など、防災機能の必要性は認識しており、その方法については、学校施設の整備にあわせ、今後関係部署と協議し検討が必要と考えます。	9 件

(7) 計画の見直し等について

3 件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
計画の見直しについて		
・今後施設を設計した際に、課題で挙がっているような施設にしかならなかった場合、計画の変更（一貫校をやめる）は考慮されているのか？ ・児童生徒数の予測より減少傾向が著しければ、結局また小規模になる学校が出るはずだがどうするのか？その度に学校をくっつけたりつぶしたりするのか？ 一貫校を作ったところでその学校も小規模になる可能性があると思うが。そうなれば中学校区を越えて一貫校に吸収したり、もしくは一貫校同士をくっつける…というのも想定されるが。 ・今後市民との懇談会等実施していき具体的な計画案ができた時にもパブコメを実施するというのだろうが、その時点では一貫校自体に反対できなくなるであろうことが予測され、問題点や不具合が出てきたとしても一貫校を設置する事はもう決まっておりそれ自体を見直すという事はせず無理矢理計画を通す事になる。5年後に検証・更新、10年後に見直し→小中分離型ならできるだろうが一体型施設を進めてしまえばどう見直しするのか？	「学校規模適正化基本方針」は、今後教育制度の変更や社会情勢の変化などが生じた場合には、必要に応じて見直すものとなっており、また、本計画の上位計画に当たる「交野市公共施設等総合管理計画」は、これからの人口推移や財政状況、施設状況の変化など様々な要因を考え、5年程度を目安に見直しを図ることとしています。 本計画は、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化などの20年以上先を見据えた、学校施設の将来に向けた望ましい配置や在り方の方向性を具体的に示すものですが、上位計画の見直し等にあわせて、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化などを見据え、必要に応じて見直すこととしています。	3 件

(8) 計画(素案)全体について

14件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
計画(素案)全体について		
・一貫教育が統廃合のツールとしてのひとつに過ぎず、統廃合を進める上でのモチベーションや大義名分的な意味合いにウエイトをかけたものである事がとてもよくわかる。 ・「小・中学校の統廃合か？」と考えた場合、市庁舎などの統廃合計画とドッキングさせた民間主導型の「街づくり」計画の一貫のような気がしてなりません。 ・「小中一貫教育の推進にふさわしい教育環境」を入れたことで、学校規模適正化を複雑化しています。一般的な小中一貫教育については納得するにしても、「施設一体型小中一貫校」については、教職員はもちろん教育関係者の中でも様々な意見があり、賛否が分かれるものです。交野小敷地への「施設一体型小中一貫校」の拙速な建設は取り止めるべきです。 ・廃校にするのは簡単にできます。廃校にしない為にどうすべきかの論議が必要ではないでしょうか。 ・学校規模、学級規模も時代と共に変わっていくでしょう。拙速に結論を出すべきではありません。全国的に賛成、反対がある問題を、賛成ですとする立場の教授の意見を聞くだけで進めることは、あとに悔いを残すことになります。社会が変われば、考え方も変わります。賛成・反対の両方の大学教授を含めた専門家の意見を十分に聞くべきです。 ・教育審議会や懇談会を行ったことはわかるが、どのような経緯で結論に至ったのかは、今回の素案の要である。審議会、懇談会にては偏りのない公平な論点で話がまとめられていったのか、とても重要なことである。 先進事例見学と称し、小中一貫校だけを見学に行って終わりなのか…？他の教育体系や教育手法の紹介もせずに、集団教育を前提とした一貫教育だけの説明のみで終わったのか？素案に記述するべきである。	小中一貫教育については、平成 32 年度より全中学校区で実施することとなりますが、施設形態にかかわらず、小中連携教育を土台に、小・中学校の教職員がめざす子ども像を共有し、9 年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育をめざします。 本計画(素案)は、市立小・中学校における児童生徒の教育環境の維持向上を図り、更なる少子化、学校の老朽化等の課題や小中一貫教育などこれからの教育に対応するため、学校施設の将来に向けた望ましい配置や在り方の方向性を具体的に示すことを目的としたものです。 今後も、児童生徒数の減少による、市立小・中学校の小規模化、学校施設の老朽化が進むと見込まれている中、将来にわたって、児童生徒の良好な教育環境を確保していくためには、学校区の変更や学校統合なども含めて、将来も適正な学校規模を確保することのできる学校配置が必要と考えます。 本計画は、児童生徒数の推移や学校施設の老朽化などの 20 年以上先を見据えた、学校施設の将来に向けた望ましい配置や在り方の方向性を具体的に示すものです。 学校教育法が平成 28 年度に改正され、小中一貫教育	14件

・統合がすすみ、事件が起こったとき、市は、市教委は、責任を持って対応できますか。何年先も見据えて、考えるべきです。建物の建替えのみを考えた施策にしか見えません。 ・計画素案そのものも見直してください。 ・地域や市民の知恵と力を集めるのではなく、スケジュールありきの印象をうけます。 ・学校規模適正化基本計画素案の中から、一貫教育についてと一貫校建築についての文言とそこに関わる項目の削除をするべきである。 ・性急に教育改革をすべきでない。 ・教育方針を変えることは重大なことなのに、市民の理解も浅いうちに急いで決めてしまう事に反対です。教育は財政面優先ではなく、真に子供の為になるよう考えてほしい。	を行う新たな学校の種類が制度化されるなど、小中一貫教育を進める社会背景のもと、本市においては、平成 22 年度から小中連携教育に取り組んでおり、平成 32 年度から、全中学校区で小中学校の義務教育 9 年間、一貫性を持たせた小中一貫教育を全面実施します。 なお、本市における小中一貫教育の方向性は、平成 28 年度策定の「交野市小中一貫教育指針」で示しています。 学校の規模適正化・適正配置の検討は、児童生徒の教育環境の向上を目的としており、財政面優先で行うものではありません。	
--	--	--

(9) その他

55件

意見等の概要	意見等に対する考え方・対応	件数
パブリックコメントの実施期間・方法等について		
・年末年始誰もが忙しいなか、正月三箇日をはさんで四日締切にするというような、このパブリックコメントの提出の仕方にも苦言を呈しておきます。 ・色んな疑問や不安があるのでもう少し丁寧に保護者だけでなく地域の人の意見も聞きながら進めてほしい。パブコメの期間が正月を挟みあまりにも短いし、周知しようという姿勢が感じられない。 ・パブリックコメントが短いです。もっと市民の声を聞くべきと思う。 ・パブリックコメントの結果、市の考えを市民に公表して下さい。 ・今の時期にパブリックコメントを実施するのは何故ですか？ ・説明会を再度開き、パブコメの期間を延長することを望みます。 ・今の時期にパブコメを実施するのは何故？もっと市民の考えを聞き、もっと説明してほしい。 ・年末・年始のあわただしい時期にパブリックコメントを実施することが誠意ある姿勢とは思えません。もっと広く市民に宣伝する必要があると思います。 ・年末年始の忙しい時期にパブリックコメントを実施することに無理があると思います。多くの市民の声を集め、経費優先でなく、子どもたちにとって一番よい学校に学校をつくってほしいです。 ・年末年始のパブリックコメント、本当に非常識だと思います。説明会の開催や、保護者へのプリント配布など、努力されていることも分かりますが、やっぱり、市民への説明が不十分！もっと時間をかけて慎重に丁寧に説明、議論していただくことをお願いします。 ・今回のパブリックコメントについて、年末という余裕がない時期に実施し、膨大な内容の計画二つも同時に行い、これらの資料を公開して一ヶ月で意見を求めるとは不可能であり市民の目線が全く抜け落ちている。	パブリックコメントの実施期間・方法等については、「交野市意見公募手続きに関する規則」に基づき実施しています。また、いただいたご意見等については、意見に対する市の考え方とともに、ホームページ等にて公表させていただきます。 本計画（素案）のパブリックコメントの実施にあたっては市広報紙やホームページへの掲載、学校関係団体への説明や、市民説明会を開催しました。また、すべての市立小中学校及び市立認定こども園に、パブリックコメント実施と市民説明会の開催について、お知らせを配布させていただき、周知に努めました。	16件

・パブリックコメントを出す期間を延長してほしいです。 ・これで説明会やパブコメ受付を終わりとせず、最低でもあと2回は説明会をする、パブコメは1月いっぱい受け付けるなど、今後住民の十分な納得と理解を得ることができるように、努力していただきたいです。 ・パブリックコメントの内容・報告を、ホームページ・閲覧資料でなく、手に取りやすい・持ち帰れる資料を配布してほしい。限られた期間（年末年始の忙しい期間）の実施。市民へのお知らせは、市民全体には、とどいていない。パブリックコメントの情報が、場所・方法も限られている。情報の配布・回収場所を、小学校・中学校・保育園・幼稚園・体育館など、市民の集まりやすい場所に拡大してほしい。市民の目にふれてこそ、「パブリックコメント」と考えます。 ・12月2日で教育長が任期満了で、教育長職が空白になっています。それが数か月つづく今、コメントを集めるのは誠実さを感じられません		
意見聴取・情報の公開・周知等について		
・まだまだ説明不十分、さまざまな意見や考えが整理されていないなどの現状を踏まえ、この計画案はいったん凍結し、もっともっと市民的合意を得て進めるべき問題だと思います。 ・計画を市民も保護者もほとんど知らないし納得もしていないと思います。必要であれば市民にきちんと説明するべきだと思います。 ・もっと市民に説明する機会を作るべきです。 ・一中校区だけが一体型校になるのは、あまり性急すぎ、当該校当該地域だけでなく市民全体に知らせ考える資料を出してほしい。（2件） ・市民の多くはほとんど知らないうちにこんな大事なことを進めてほしくありません。急がないで、市民の声をもっともっと聞いてほしいです。 ・小中一貫教育や一体校について、市民や保護者の方々に十分理解、納得してもらってから、よく考え検討して進めていただきたいと思います。 ・素案には、正しい情報を全て提示しなければならない。その全てをもって市民に	交野市学校教育審議会や第一中学校区における市立小中学校の適正配置等に関する懇談会の開催等も含めて、市立小中学校の規模適正化・適正配置を検討してまいりました。 審議会での審議内容や資料は逐次ホームページに掲載しています。 また、懇談会の内容については、第一中学校区の各学校の児童生徒を通じて、保護者の方々にお知らせを配布するとともに、地区での回覧をお願いいたしました。 本計画の策定を進める中で、地域や学校関係団体へも説明等に伺いました。 審議会の中間答申及び、本計画が策定される際に	36件

再度コメントを請うべきである。 ・市民に対する説明の場をもっと設定してください。分かりやすい資料を公報などにのせてください。 ・行政の設置ありきの独走でなく、子供達の幸福のため保護者の意見をよく聞きそれに立脚した行政こそが民主主義の基本であり本来のあり方ではないかと思えます。基本計画、管理計画（素案）等も私のところには届いていません！ 作ったから見にこいという姿勢ではなく、住民の希望を基に施策を行って頂きたいと存じます。 ・少なくとも第一中学校校区の市民・保護者に繰り返し説明会を開くべきです。見切り発車はこれからの交野の町づくりに禍根を残します。 ・公においていない情報が多く、事後報告が多すぎる。 ・全てが不透明。全て知りたい。 ・情報がもらえないのか不満。 ・情報が不足していて不安感があります。情報の公開をきちんとしてください。 ・保護者・市民に向けて周知議論する場・機会が更に必要と思います。その中で、一体型校以外の方法を探っていくことや、子ども達に一番よい方法を見つけることが求められます。 ・学校統廃合、小中一貫校について市民にはまだまだ周知されていないと思います。 ・詳しい内容を知らない人が多いと思います。資料や説明会等で十分理解・納得をしてもらってからでもいいのでは！ ・市民の声を充分反映していただきたいと思えます ・勝手に話をすすめずに市民や保護者にしっかり説明をして、市民や保護者の意見をしっかり受けとめてほしいです。 ・もっと保護者や市民の意見を聞いたうえできめていってほしいです。 ・現場の教職員や地域住民の意見を聞き慎重に検討すべき問題でありきちんとした説明が必要です。 ・広く市民に知らされていない状態のまま GO されようとしているこの状態を憂い	は、広く市民の意見を募集するため、パブリックコメントを実施し、実施にあたっては、市広報紙やホームページに掲載し、市役所本館と学校規模適正化室にて公開しました。 なお、本計画（素案）のパブリックコメント実施時には、市民説明会を平成 30 年 12 月 15 日と 19 日に開催し、すべての市立小中学校及び市立認定こども園にパブリックコメント実施と市民説明会の開催について、お知らせを配布させていただきました。 今後も進捗状況にあわせて、市広報紙やホームページ等への掲載、お知らせ等の配布、懇談会や説明会等の開催をもって、広く情報提供を図ります。 学校規模適正化に伴う校区変更や学校統合、複合化などの再編や効果的な運営を実施するにあたっては、市民の理解や協力が必要不可欠となります。そのためには、本計画等の内容を市民にできる限り周知するとともに、協働して実行していくことが最重要となります。 特に、学校施設は本市の子どもたちにとって最も重要な施設であり、市民にとっても身近な施設として重要です。 これからの学校施設の在り方について、市広報紙やホームページをはじめ、保護者や学校関係者、地域の方々との懇談会やワークショップを行うなど、様々な手段を通じて市民の理解と合意形成を図りながら、本
--	--

ています。 ・市民の理解協力が必要不可欠、計画等の内容を市民に対しできる限り周知としながら、今回の案が出来上がるまでにほぼ市民の意見を聞いていない。 ・交野小敷地への「交野小・長宝寺小・一中の施設一体型小中一貫校」建設計画は、市民にはほとんど知られていません。各学校毎に保護者向けの「施設一体型小中一貫校」説明会を開催して欲しいです。 ・小中一体型の学校がつくられようとしている交野小学校校区・長宝寺小学校校区・第一中学校校区の住民を対象とした説明会や、他の校区の保護者・教職員・児童生徒に対しての説明会を開催する必要があります。十分な納得と理解が得られるように努力していただきたく思います。 ・パブコメなどをもとに素案が出来てくれば、交野市の教育全体にかかわる問題なので各中学校区で説明会を開いて下さい。 ・もっと詳しく説明するとともに、市民の声を広く集める方法をとって欲しい。中学校区単位ぐらいで説明会を再度実施して頂きたい！！ ・長宝寺小学校の統合については、地域の方々、卒業生、在校生、PTA など、学校にかかわるすべての方の意見を聞いて下さい。 ・市民の理解と協力なしに交野の子どもは守れません！教職員の声市民の声子どもの声を聞き進めてほしいです！ ・教育を子どもに提供する側（保護者）に対しては、ワークショップ、説明会やパブコメの実施を行い、意見を聞いているが、実際、学校で長い時間を過ごしている、提供を受ける側である生徒や児童たちにも意見を聞いているのか？ ・現場の先生方、地域の皆の意見をよく聞いてほしい。 ・勤務労働条件に関わることが派生する問題なので、教職員の職員団体とも十分な話しあいを取ることが必要と思います。教職員の納得なしには進めないで欲しいです。 ・教職員が小中一貫校のこの現実を理解していない現状では、力を合わせ、よりよい教育ができるはずがありません！教職現場の先生方に不安を与えず、やる気を起	計画に基づく各種事業を進めていくことが必要と考えています。 学校適正配置については子どもの意見を直接聞いておりませんが、今後、学校施設整備に際しては必要に応じて子どもの意見も聞いていきたいと考えます。	
--	--	--

こさせるようになっていねいな説明が必要です。現場の先生方の声も大切になさって下さい！！ ・何事も住民の声をよく聞いて、時間をかけて話しあい、議論を重ねて行政の都合や大人の都合ではなく、子どもたちの豊かな成長のために、多くの住民が納得するような方向で考えて頂きたいと願います。 ・アンケートを行ったと豪語するが、今の人数はどうか？とか利点や不利点は？などのあとに、どのくらいのクラス数が望ましいか？と問いかけられたら、それぞれの通っている学校でのイメージをもって、3クラスとか4クラスとか記入するが、それは、今の学校のままでという大前提に立っての回答であって、素案には、それらとの怪しげな経緯を全て省くべきである。 ・A4で1枚に、簡潔に誰もが見てわかるように書いてこそ、多くの人に読んでもらえ、意見も出ることでしょう。	市立小中学校の適正規模・適正配置を検討するにあたり、学校現場に最も係わりの深い保護者及び学校教職員の考えを推察することを目的として、平成28年に市立小中学校及び市立幼稚園の保護者・教職員へアンケート調査を実施いたしました。 本計画（素案）は、パブリックコメントの実施にあわせて概要版を作成し、公開しました。	
その他		
・1月号の「交野市広報」に、統合が決まったかの様な記事があります。パブリックコメントの実施中に、載せる記事としては、不適切。市民の声を聞こうとしていない。配慮に欠けると感じています。 ・今の交野市の良いところ「35人学級6年生まで実施」「中学校給食実施」など、アピールすることなど、力をいれてほしいです。 ・地域の住民も校区福祉委員会など子供たちの為に色々と活動しています。交野市はこれらの事をもっと評価して援助してほしいと思います。	平成31年1月号の「広報かたの」には、小中一貫教育についての理解を深めていただくための記事を掲載しており、一般論として、小中一貫教育を行う学校の施設形態の種類について説明したものです。 教育環境の向上に資する、本市独自の取り組みや特色は、市広報紙やホームページ等で幅広く市内外に市の魅力として発信し、子育て世代の呼び込みにつなげていきたいと考えます。 日ごろから子どもたちのために地域で活動していただいている方々には大変感謝しております。今後も	3件

	子どもたちのための活動に対する支援に努めてまいります。	
--	-----------------------------	--